

貯 法：室温保存  
使用期限：外箱に表示の使用期限内  
に使用すること

日本薬局方

承認番号	(60AM)3694
薬価収載	1964年10月
販売開始	1964年10月
再評価結果	1977年10月

# ブドウ糖

Glucose

## 【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

ブドウ糖吸収不良の患者

## 【組成・性状】

本剤はブドウ糖の原末で、白色の結晶又は結晶性の粉末である。

## 【効能・効果】

- ◇経口的栄養補給
- ◇ブドウ糖負荷試験

## 【用法・用量】

経口的栄養補給には、必要量を粉末あるいは水溶液として経口投与する。

ブドウ糖負荷試験には、通常成人1回ブドウ糖として50～100gを経口投与する。

なお、年齢、体重により適宜増減する。

## 【使用上の注意】

### 1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1)カリウム欠乏傾向のある患者 [ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。]
- (2)糖尿病の患者 [高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

### 2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
消化器 <sup>注)</sup>	大量を経口投与するとき悪心・嘔吐、下痢、腹痛

注) 慎重に投与すること。

### 3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

## 【薬効薬理】

ブドウ糖は食餌中の主な糖質構成成分で、また血中にみられる糖質でもあり、生体の最も基本的なエネルギー源であるといえる<sup>1,2)</sup>。

糖質補給が不十分な場合、生体はエネルギー源として蛋白や脂肪を動員し、そのため蛋白代謝産物の排泄増加やケトosisを起す。ブドウ糖投与の主な目的はエネルギーを補給し、このような蛋白・脂肪の分解を抑制することにある<sup>1,2)</sup>。

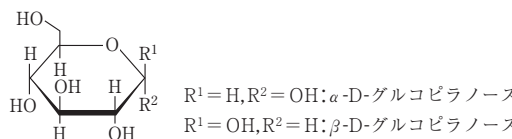
他に、ブドウ糖は糖尿病の診断の糖負荷試験に用いられる<sup>3)</sup>。

## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：ブドウ糖

化学名：D-glucopyranose

構造式：



分子式：C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>

分子量：180.16

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。  
水に溶けやすく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

## 【包 装】

500g      5kg

## 【主要文献及び文献請求先】

- 1)日野原重明, 新内科学大系, 第5巻A, 191 (1976)
- 2)The United States Dispensary, 27th ed., 407 (1973)
- 3)小坂樹徳, 新内科学大系, 第46巻B, 103 (1975)

※※【文献請求先】 扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門  
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号  
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706  
(9:00~17:30/土日祝日を除く)

製造販売元※



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号

SG-008-008B